金沢大学広報誌｜アカンサス

Acanthus

【特集】ICTが変える大学教育 P.2 / 金沢大学男女共同参画 P.12 / 【連載】金沢大学のキャリアサポート❸ P.14 / 学生インタビュー P.16 / サークル紹介 P.17 / 金沢大学同窓会情報 P.18 / 金沢大学基金・創基150年記念事業 P.19 / ニュース&トピックス P.20 / DATA NOTE P.22 / イベントカレンダー P.23 / ぶらりキャンパスめぐり P.24

特集

ICTが変える大学教育

金沢大学キャンパス・インテリジェント化構想

No.19

ICTが変える大学教育

特集

金沢大学キャンパス・インテリジェント化構想

ますます高度化する情報化社会。スマートフォンやタブレットPCが登場し，教育現場にもさまざまな機器が導入されています。全国の大学の中でも，先駆者として進化し続ける金沢大学のICT（情報通信技術）活用術を紹介します。

時間と空間を超越 さまざまな可能性が広がる

一方通行の講義から、学生が積極的に参加する双方向型の授業へ――

２００８年に出された中教審答申では、大学教育改善のための一つの方法として、学生に授業への主体的な参加を促す「双方向型授業」に注目しています。その実現にはＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な活用が不可欠であり、これからの教育はＩＣＴをどのように活用していくかが大きな鍵を握っています。

金沢大学では、学内の無線ＬＡＮ環境を整備し、ＰＣ必携化、さらにアカンサスポータルの開発やマイクロソフト社との包括ライセンス提携など、ＩＣＴ活用に向けて環境整備、技術開発を積極的に推進しており、今日、国内でもトップレベルのｅラーニング環境として学外からも高い評価を得ています。

大学の授業は対面が基本であり、ｅラーニングは従来の授業を置き換えるものではありません。しかし補完的な面でＩＣＴを活用していけば時間と空間の制約を超越するなど、さまざまな可能性が広がります。

自学自習をきめ細かくサポート

金沢大学では現在、授業の理解を助ける多くのｅラーニング教材をネット上に公開しており、学生はＰＣを使って予習、復習に積極的に活用しています。このようにモバイル端末も含めてＩＣＴを活用すれば、「いつでもどこでも」「自分のペースで」自学自習が可能です。とりわけ、反復学習が必要な語学にはｅラーニングは最適でしょう。「学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする」ことを大学憲章で宣言する本学にとって、ＩＣＴは学生の学びをきめ細かくサポートするシステムにほかなりません。

また、ＩＣＴを使って北陸３県の国立大学（富山大学・福井大学・北陸先端科学技術大学院大学・金沢大学）を結ぶ「双方向遠隔授業システム」を２００６年度から開始しています。同システムによって学生は、他大学のさまざまな授業を自分の大学にいながらにして受講、意見交換が可能です。

このほか、金沢大学が東京学芸大学、愛知教育大学、千歳科学技術大学と提携し、09年度から開始した教員免許更新における「ｅラーニング講習」も高い人気を集めています。

授業適性と教育効果を検証

ＩＣＴの活用は手段であって、目的ではなく、あくまで大学の教育目標を達成するための選択肢です。ｅラーニングがどんな授業に適し、どのような教育効果があるのか、本学では常に検証作業を行っています。

金沢大学は先駆者として、いまも進化を続けています。

金沢大学教育担当理事
樫見 由美子
KASHIMI Yumiko

CONTENTS

P４ 学生PC必携化が牽引 ユビキタス化するキャンパス
P６ 国内屈指の規模を誇る トップレベルのeラーニング環境
P８ 導入事例1 知識量に差がある初年次教育に最適
P９ 導入事例2 目に見えない物質の構造や変化を可視化
P10 アクティブ・ラーニングのための学習空間を創造する

総合メディア基盤センター長
青木 健一 教授
AOKI Kenichi

学生PC必携化が牽引
ユビキタス化するキャンパス

全国的に見ても最先端を行く金沢大学のキャンパス・インテリジェント化。システムの導入には多くの課題がありましたが，2006年度の学生ＰＣ必携化が牽引しました。

空気のようにPCを利用

金沢大学キャンパス・インテリジェント化構想は「ＩＴ教育用素材集の開発とＩＴ教育の推進」プロジェクトが文部科学省の２００４年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）」に採択され、学内に「ＩＴ教育推進プログラム」を立ち上げたころから一気に進みました。

２００６年度から講義室や図書館、食堂などキャンパス各所に無線ＬＡＮのアクセスポイントを設置。これに併せてノートＰＣを必携化し、コンピュータとネットワークに囲まれたキャンパスはまさに空気のようにＰＣを利用できるユビキタス※な環境を実現しました。

さらに同年度より、理系・文系を問わず、「高度情報化時代に対応できる情報処理の基礎能力・総合力を持った人材育成」が不可欠との考えに基づき、ノートＰＣを利用した新入生向けの授業「情報処理基礎」を必修としています。また、３年間の現代ＧＰが終了した２００７年度には、ＩＣＴを活用した教育環境構築の取り組みを継続させるため、「ＩＣＴ教育推進室」（現在のＦＤ・ＩＣＴ教育推進室）を立ち上げ、アカンサスポータルの運用を担っています。

インテリジェント化が進む全国の大学のなかでも、金沢大学はトップを走っています。先頭に押し上げるブルドーザー役を果たしたのがＰＣ必携化であり、これまでの先駆的な取り組みは、徐々に成果を出し始めています。つまり、本学のキャンパス・インテリジェント化構想は「成功した」と言えます。

加えて、機器のチェックやセットアップ講習会などを担当し、学生のＰＣ必携化を側面からサポートしている金沢大学生協の役割も見逃すことはできません。

1年次必修科目
「情報処理基礎」

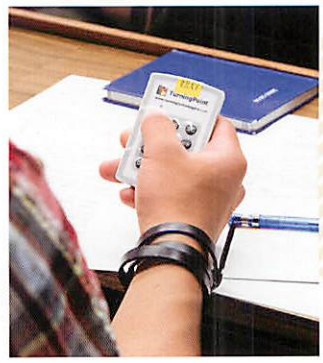
PC必携化

学内の無線LAN環境の整備に伴い，ノートPCを必携化。キャンパス内で空気のようにPCを使用できる環境を構築しています。

金沢大学生協なら4年間安心!
充実のPCサポート体制
- セットアップ講習会
- PC，ソフトの操作法アドバイス
- 無償修理，代替PC貸出
（生協で購入した推奨マシンに限る）

出席管理システム

学生は講義室入室時に学生証（ICカード）を専用端末にかざすだけで出席登録ができます。出席確認の時間が大幅に短縮され，授業時間を有効に使えます。



クリッカー

授業中，クリックひとつで学生の理解度や賛否を問うことができ，学生参加型の授業が作れます。回答を自動的にグラフ化する機能もあります。

「金沢大学方式」を採用

アカンサスポータル（P7参照）の開発・運用にあたっては学内にある既存システムに橋を架け、一つのシステムにする独自の「金沢大学方式」を取り入れています。パッケージ化されたシステムを丸ごと導入するのではなく、大学の各部局がこれまで個別に導入・運用してきた複数の教育関連システムを、学習履歴や指導状況を記録する「ポートフォリオデータベース」に集約し、これを介してすべてのシステムの連携を図りました。全国から視察に訪れる大学も多く、「金沢大学方式」は他大学のモデルとなっています。

システムをつなぐことによって、さまざまなサービスへの入り口がアカンサスポータルに一本化されました。従来、システムを利用する際、複数のIDとパスワードが必要でしたが、アカンサスポータルでは「金沢大学ID」のみで、すべての必要情報にアクセスできるようになりました。

金沢大学では2010年度より、入学が決まった時点ですべての学生に金沢大学IDを付与しています。これは身分の変更によらない生涯IDであり、卒業、大学院進学、就職後もアカンサスポータルにログインすることができ、母校への関心を持ち続けてもらうねらいもあります。

※あらゆるコンピュータがネットワークに接続された状態で、だれもが、いつでも、どこでも情報にアクセスできる状態

総合メディア基盤センター

金沢大学の情報ネットワーク拠点。学内ネットワークの管理や情報セキュリティ対策，学術情報データベースなどを提供しています。

http://www.imc.kanazawa-u.ac.jp/

金沢大学のキャンパス・インテリジェント化

無線LAN

授業以外でもPCが使用できるように，キャンパスのほぼ全域でネットワークアクセスが可能な無線LAN環境を整備しています。

国内屈指の規模を誇る トップレベルのeラーニング環境

eラーニングには，PCとインターネット環境があれば「自由な時間，場所で学習できる」「自分のペースや達成度に応じて学習を進めることができる」「授業の聞き逃しがない」といった，さまざまなメリットがあります。

大学教育開発・支援センター
FD・ICT教育推進室実務委員長
山田 政寛 准教授
YAMADA Masanori

学生一人ひとりの学習状況を把握

eラーニングは場所や時間を選ばない一方で、学習管理システム（LMS）と連携して学生の学習履歴を残すことができるため、「どの単元をいつ、どれくらいの時間、学習したか」「テストの成績はどうだったか」など、教員が個々の学生の学習状況を把握することも可能です。学習履歴を活用することで、学習が停滞した学生や、十分に理解していない部分などを効率よく見つけ出すことができます。

学習管理システム「WebClass」

インターネットを利用して資料の提示，テストの実施，レポートの提出や成績データの集計が行える学習管理システム（LMS）です。

アカンサスポータルでできること

アカンサスポータルは学内情報ネットワークを活用した学習サポートシステムです。学生生活を送る上で欠かせない学生部や図書館などと連動し、ネットワークにつながったPCがあればいつでもどこでもアクセスが可能です。履修登録やレポート提出はもちろん、休講や教室変更、試験などの情報も、大学の掲示板を見ることなくアカンサスポータルで確認できます。

また、緊急時に一斉連絡できる「C-SIREN（シーサイレン）」システムは、連絡を受けた学生が状況報告を行うこともでき、学生の安全をサポートします。

アカンサスポータルには多彩な機能があります。

ログイン画面

金沢大学IDとパスワードを入力してログインします。

時間割画面

休講・補講・講義内情報などを確認できます。

履修登録画面

履修を希望する科目の担当教員，曜日・時間を確認し，申請ができます。

多彩な機能にワンストップアクセス

アカンサスポータルは,必要情報にアクセスするための,いわば「玄関口」です。

学生向けメニュー

履修登録／健康診断情報／サークル情報（リンク）

学生・教職員共通メニュー

学習管理システム（LMS）／時間割（講義情報）／シラバス閲覧・入力／授業評価アンケート／ICカード対応出欠管理／スケジューラ／ファイル共有／就職支援／SNS／お知らせ・電子掲示板／図書サービス（貸し出し・督促）／緊急時連絡システム（C-SIREN）

教職員向けメニュー

事務職員用掲示板／SD・研修用コンテンツ閲覧／ソフトウェアダウンロードサービス／給与明細／年末調整・所得控除申告／電子職員録／メッセージ送付（呼び出し・質問応対・事務連絡など）

対面授業と違って、「eラーニングでは学生の顔が見えないのでは」と思われるかもしれません。しかし、eラーニングではむしろ、教員は学生一人ひとりの学習行動や理解度などをきめ細かく把握でき、学習が停滞する前にサポートすることができます。

国内大学屈指の大規模システム

教育活動支援はもとより、教職員に対する利用サポートも充実しています。研究活動や業務上でも活用できるアカンサスポータルやその支援体制も金沢大学ならではの強みです。全学単位で運用されるシステムは、日本の大学を見渡しても屈指の規模を誇っています。

さらに学内にFD・ICT教育推進室※を設置。ポートフォリオデータベースの構築やLMSの管理・運用などICTシステムの開発・管理に力を入れているほか、ICT教材作成のサポートなどを行っています。

教材作成では、学生が積極的にかかわっている点も金沢大学の大きな特徴です。

※アカンサスポータルの活用を軸に、全学的な授業支援、学生支援、カリキュラム開発など幅広いFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を支援しています

導入事例 1

知識量に差がある初年次教育に最適

共通教育科目「大学・社会生活論」を担当する古畑徹教授に，eラーニングの活用法について伺いました。

人間社会研究域歴史言語文化学系
古畑 徹 教授
FURUHATA Toru

効率よく知識を平準化

「大学・社会生活論」は、大学で学ぶための基礎を1年生の時にしっかりと身につける初年次教育として、新入生1800人を対象に行っている全学共通の必修科目です。内容はノートの取り方やレポートの書き方といったスタディスキルズから、就職活動・健康管理・ハラスメント・留学支援など社会生活の基礎や自己開発、さらには人権・環境・技術者倫理などの現代的な教養まで、幅広いテーマが含まれています。

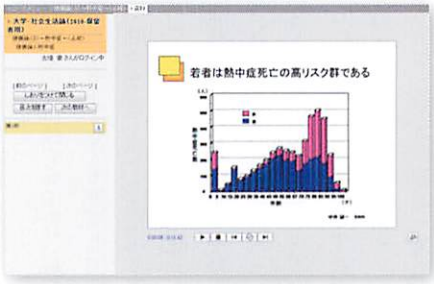
学生によって持っている知識が異なるスタディスキルズや社会生活に関する事柄を対面授業で提供するのは時間的にも、あるいは教員の負担も大きいものでした。しかし初年次教育にeラーニングを導入することで、個々の知識量に応じて学習することができ、効率よく学生の知識の平準化につなげることができました。

eラーニング教材はパワーポイントでベースを作成し、そこに音声を加え、場合によって教員も登場しています。すべての教材は紙媒体の教科書とセットになっています。例えば環境問題に関しては「ゴミ」「排水処理」「金沢大学の取り組み」の三つのコンテンツが作成され、対面授業と連携しています。「大学・社会生活論」は従来の対面授業では、すべてを受講するのに15週かかりましたが、eラーニングの導入で数週間程度短縮することができ、学生は学期末を試験やレポートに集中することができるようになりました。

対面授業と組み合わせより高い教育効果

「大学・社会生活論」のような授業は、近年全国で増えつつありますが、金沢大学が先駆けといってよいでしょう。この状況でeラーニング教材の作成まで始めましたので、他大学のサンプルはほとんどなく、その取り組みには多くの困難が伴いました。しかし、FD・ICT教育推進室と綿密に話し合い、その支援を受けて何とか開発できました。おかげで、eラーニング導入後の「大学・社会生活論」への学生の評価は高く、4分の3以上がプラスと評したクラスもあります。

より教育効果を上げるには、「大学・社会生活論」のようにeラーニングと対面授業を組み合わせたブレンデッド・ラーニングが必要です。今後はeラーニングを単独で活用するよりも、対面授業とどのように組み合わせていくかが課題となっていくでしょう。



パワーポイントのグラフデータなども使用

「環境問題の基礎」には，教科書では表せないような動画も収録

導入事例 2

目に見えない物質の構造や変化を可視化

「化学実験」などの授業でeラーニングを駆使している国本浩喜教授にそのメリットを聞きました。

理工研究域物質化学系
国本 浩喜 教授
KUNIMOTO Koki

遊び心のある教材で学生の興味を引き出す

共通教育課程で文系学生を対象に「身のまわりの化学」という授業を開講していますが、テキストだけでは物質の構造や性質、変化を教えるには限界があると痛感したことから、積極的に授業にeラーニングを取り入れています。

物質は原子や分子、イオンなどの基本粒子が集合してできており、物質の性質はそれらの集合状態や配列に強く依存して変化します。また、基本粒子にはさまざまな大きさのものがあります。物質の成り立ちや性質の関係、基本粒子、特に分子の大きさといった目に見えないものを理解し、考察するにはコンピュータによって可視化、立体化したグラフィックスやアニメーションが極めて有効です。

授業では分子モデルの画像や、分子シミュレーションの動画、ビデオなど、あらゆる媒体を用いています。遊び心のある教材は学生の化学に対する好奇心や興味を引き出すと考えているからです。

これまでに作成したeラーニング教材はこのほか、化学実験を集めた動画集や実験器具の扱い方など、多岐にわたっています。その一方で「eラーニングに依存し過ぎてはいけない」とも考えています。

情報量の多いeラーニングは優れた学習方法で、教育効果も見込めますが、万能ではありません。より理解を深めるには紙媒体の教科書の併用が不可欠です。

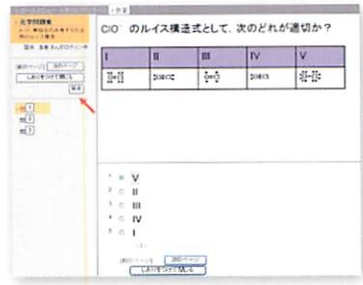
学習管理システムも駆使

eラーニング教材のほかにも、学習管理システムを使って学生への連絡、資料の配付、予習・復習、課題提出、出席管理などを行っています。学習管理システムを活用することで、多人数の対面授業では難しい「学生との個別コミュニケーション」をこまめに行うことも可能になりました。さらに単元ごとに学生の理解度を測る4択、あるいは5択の練習問題をWeb上で実施しています。

次に開発したいのは、化学英語のeラーニング教材です。現在、化学に関する専門英語の教材が少なく、その作成が急務とされています。金沢大学が留学生をますます受け入れ、また、海外へ本学の学生を送り出していくためにも、できるだけ早く開発に取りかかりたいと考えています。

コンテンツ作成スタジオ

キャンパス内にあるコンテンツ作成スタジオには、実験・実習ができるようドラフト（排気装置）や実験台が設置されています。



物質化学に関する予習・復習を行う「化学問題集」直ちに採点でき解説も表示されます

機器の操作法などを動画で確認できる「ビデオで見る化学実験の基本操作」

コラボスタジオ

アクティブ・ラーニングのための学習空間を創造する

社会が求める「問題解決能力を備え，能動的にイノベーションを起こすことのできる人材」の育成の鍵として注目されている学習法が「アクティブ・ラーニング」です。

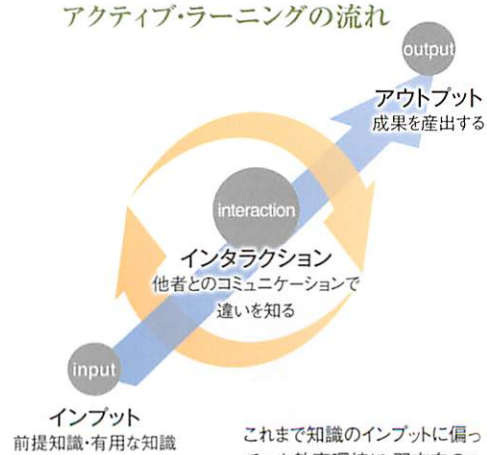
問題解決能力を養う学習法として注目

従来の対面授業は、教員が一方的に知識を伝達する学習法が一般的ですが、アクティブ・ラーニングは教員と学生が、あるいは学生と学生がコラボレーションを通じて学習成果を創り出していきます。

「双方向型授業に欠かせないＩＣＴを効果的に取り入れながら、今後の社会を担う学生たちに求められる問題解決能力を養う学習法として、アクティブ・ラーニングは極めて有効と言えるでしょう」（山田政寛ＦＤ・ＩＣＴ教育推進室実務委員長）。

中央図書館のラーニング・コモンズは、アクティブ・ラーニングの考えを活用した学習空間づくりを進めており、多様な形態の教育・学習に応じた使い方ができます。

アクティブ・ラーニングの流れ



これまで知識のインプットに偏っていた教育環境に，双方向のコミュニケーションを加えることで問題解決能力を養い，学習者の主体的な参加を促します。

まだまだある

金沢大学 ICTトピックス

しいのき迎賓館セミナールーム

旧石川県庁本庁舎を改築し，2010年に開館した「しいのき迎賓館」3階のセミナールームの設計に，金沢大学が参加しました。40人程度の利用が可能な「セミナールームA」はアクティブ・ラーニングに対応できるように可動式の机・イス，3面のスクリーン，プロジェクター，ホワイトボード，無線LANを設置しています。70人程度の利用が可能な「セミナールームB」にはテレビ会議システムが設置され，無線LANも導入しています。いずれも金沢大学を含む大学コンソーシアム石川※による講義のほか，グループワークや実習，企業の会議，研修などにも利用できます。

しいのき迎賓館

セミナールーム

※石川県内のすべての高等教育機関（大学，短大，高等専門学校）が連携して，教育交流・情報発信・調査研究等を行い，高等教育の充実・発展に務めています

MS包括ライセンス契約

2010年3月，教育効果の効率化や費用削減，ソフトの不正利用防止を目的に，マイクロソフト社と包括ライセンス契約を締結しました。これにより金沢大学に在籍するすべての学生，教職員について，マイクロソフト社の「Windows」と「Office」を個別購入する必要がなくなり，いつでも最新の製品を利用できます。

ヴァーチャル・ミュージアム構想

金沢大学資料館では所蔵資料のデータベース機能とWeb上での仮想展示機能を有した「ヴァーチャル・ミュージアム」の構築に取り組んでいます。所蔵資料を学術研究資料にとどめず，地域情報資源としてインターネットを介して全世界へ公開，発信することを目的に，2009年度から貴重な文化財である旧制第四高等学校で使われた物理実験機器のデジタル画像データ化を行っています。

ほん和かふぇ。

インフォスクエア

ブックラウンジ

図書館のイメージが変わるラーニング・コモンズ

ラーニング・コモンズは大きく三つのエリアに分かれています。

2階の「ブックラウンジ」は無線LANも使えるオープンなコミュニケーションスペースで、飲食も可能な「ほん和かふぇ。」やイベントスペースも併設しています。

また、「インフォスクエア」（裏表紙参照）は本を含めたさまざまな情報にアクセスできるスペースで、蔵書検索や新聞などのデータベース検索用PCとインターネットアクセス用PCを設置しています。

3階の「コラボスタジオ」は図書館蔵書とPCを活用したグループ学習からプレゼンテーション演習まで、多様な学習形態を支援するスタジオを備えています。ホワイトボードやプロジェクターを利用できるオープンスタジオでは、机やイスを自由に移動して組み合わせ、グループワークやディスカッションを円滑に行うことができます。また、8人用と6人用の部屋を用意したグループスタジオでは隣を気にせず、議論することができます。

金沢大学では今後、ICT環境をさらに整備し、学習空間・学習支援をより充実させていきます。

金沢大学男女共同参画

華麗に情熱的に！女性研究者シリーズ2

THE STORY OF MY RESEARCH

江戸の養生論研究を通して現代にも通じる教育を探る

外国語教育研究センター 准教授

趙 菁

CHO Sei / ZHAO Jing

中国出身。金沢大学大学院社会環境科学研究科修了。趣味は絵を描くこと。研究室の壁に飾る大きな絵に挑戦したい。好きな言葉は仏教用語の「和顔愛語（わげんあいご・和やかな笑顔と優しい言葉）」。

来日のきっかけは、中国の外国語大学で日本語を学び、交換留学生となったこと。本学大学院に進学し、江戸時代の国学者・鈴木朖（あきら）の学問にふれたことが、今の研究へと続いている。

本居宣長（もとおりのりなが）の弟子である鈴木は、教育の一環として養生（健康）も研究した。鈴木の考えは、体の健康だけでなく心の健康にも及ぶ。趙先生の研究対象はその「養生論」で、教育とも切り離せないという。「悩みやゆがみを抱える学生と向かい合うときに役に立つ。その経験をさらに研究に活かしたい」と考える。

研究では江戸時代の文献を読む。第一言語でない日本語を、しかも古い文法・字体で読むのは至難の業だ。しかし、読めたときには達成感がある。「附属図書館には旧制第四高等学校からの文献も多い。まわりの先生方のアドバイスにも助けられています」と話す。

研究者・教育者である一方で、就学前の2児の母親でもある。今が人生で最も忙しい時期と感じるが、「どんなことでも自分のためになる。研究成果も出したい」と笑顔で決意を新たにする。家庭では子どもが好きな煮物をよく作り、長期休暇には単身赴任中の夫を訪ねて上海に行くのだとか。忙しくも、充実した毎日を送っている。

教員になったころに描いたリンゴの絵

研究パートナー（？）の脚マネキンと

女性ならではの感覚を感性工学に注ぐ

理工研究域 機械工学系 助教

若子 倫菜

WAKAKO Lina

岐阜県出身。信州大学大学院工学系研究科修了。「ものごとには必ず理由がある」が信条。プライベートでも気付けば研究のことを考えているが「研究以外の趣味も広げていきたい」とはにかむ姿に女性らしさがチラリ。

感性工学※1の立場から「脚部を美しく見せる」ストッキングを追求する若子先生は、学生時代にはロボット工学を専攻。周囲は男性ばかりだったが、性差を意識したことはないという。次第に機械そのものよりも「使いやすさ」や「美しさ」といった消費者の感性に興味を持ち、感性工学の分野にたどり着いた。

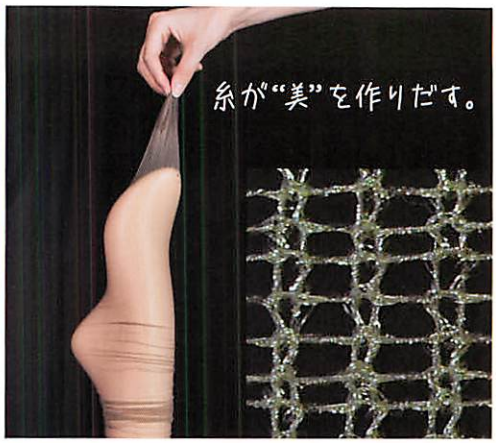
「男子学生への研究指導を通して、男女の感覚の違いを初めて実感しました」。若子先生の研究室には、現在3人の男子学生が在籍。彼らに数足のストッキングを「きめが細かくみえる」順で並べさせると、女性である自分とは全く逆の結果で驚いたという。そこで、女子学生で試してみると結果は自分と同じだった。「本当に不思議。ぜひ心理学者の意見を聞きたい」と探究心は尽きない。

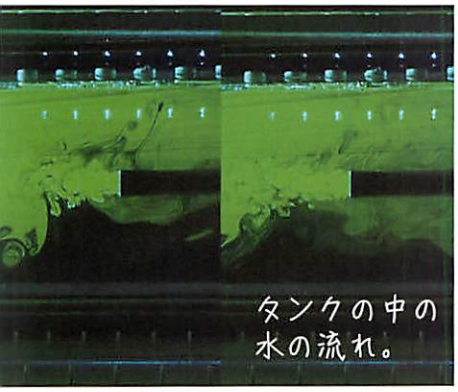
理想のパートナー像は「お互いに干渉しないでいられる」人。生涯研究を続けたいからだ。そんな若子先生にとって、金沢大学はとても魅力的だという。「女性や若手研究者へのサポートがきめ細か。研究パートナー制度※2をはじめ、ジェンダー（社会的性差）をテーマとしたシンポジウムも多く開催されている。研究成果や研究環境に対する意見をどんどん発信できる環境が素晴らしいですね」。

※1 人が心地よさや快適さを感じる条件を分析し、製品に活かすための学問分野

※2 研究と、出産・育児・介護等を両立する研究者に研究補助業務を行うパートナーを派遣する金沢大学の制度

水質管理センターの
消化タンク。

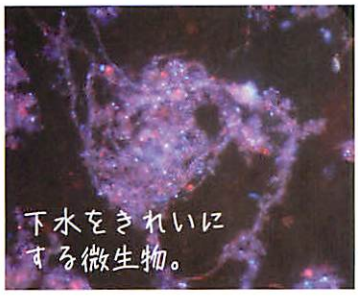

糸が"美"を作りだす。


タンクの中の
水の流れ。

記録の宝庫。

塩化アパタイト鉱物
ーバナジナイトー

ウメマツアリの
特異な性。


下水をきれいに
する微生物。

2ミリだったヤゴが
金色に羽化。

恐竜のあしあと。

研究の中でとらえた美の一瞬

CAREER DESIGN

金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー※では，理工系の女性研究者が研究をしていて見つけた美の一瞬を紹介する写真展「Beauty in Science, Technology and Engineering」を開催しています。

※女性が積極的に研究を継続し，成果を挙げて実力を発揮できるように，研究環境・制度の整備，広報・啓発活動を行い，男女共同参画社会の実現をめざしています

http://cdl.w3.kanazawa-u.ac.jp/

極微の世界、素粒子。

連載

金沢大学のキャリアサポート

③ 対策で差が出る!

3年の秋から本格的に始まった就職活動は，春には選考・内定期に入ります。金沢大学では，エントリーシートの書き方から面接の指導まで一人ひとりをきめ細かくサポートします。

エントリーシートの書き方で決まる!?

エントリーシートとは、企業ごとに提出を求められる応募用の履歴書のようなもの。志望動機や自己PRなどの一般的な項目から、「あなたがもしこの会社で新規事業を提案するなら、どんな事業を提案しますか」といった、その企業独自の内容までさまざまです。

大手企業やマスコミなどの場合、提出したエントリーシートで厳しい書類審査が行われ、面接まで進めない事例も多くなっています。最近では、会社説明会に参加する際にエントリーシートの提出を求める企業も多く、これをきちんと書くことが重要です。

自己理解を促すエントリーシート指導

本学では、3年次の12月までのガイダンスで、エントリーシート作成に必要な知識やまとめ方の指導を一通り行います。応募する企業ごとに適した内容のものを作成する必要があるため、2月から3月は個別指導が中心です。

志望先の企業が「どのような人材を求めているか」「働く上でどのような能力を必要としているのか」などを共に考え、その学生の持ち味のどこを中心にアピールするのがよいかを学生と一緒に探っていきます。同時に「なぜその会社で働きたいか」「その会社でどんな仕事をしたいのか」といった自己理解も深め、志望動機の掘り下げやキャリア意識の育成を図ります。

志望企業にあわせたエントリーシート作成を指導

面接指導で、対応能力を強化

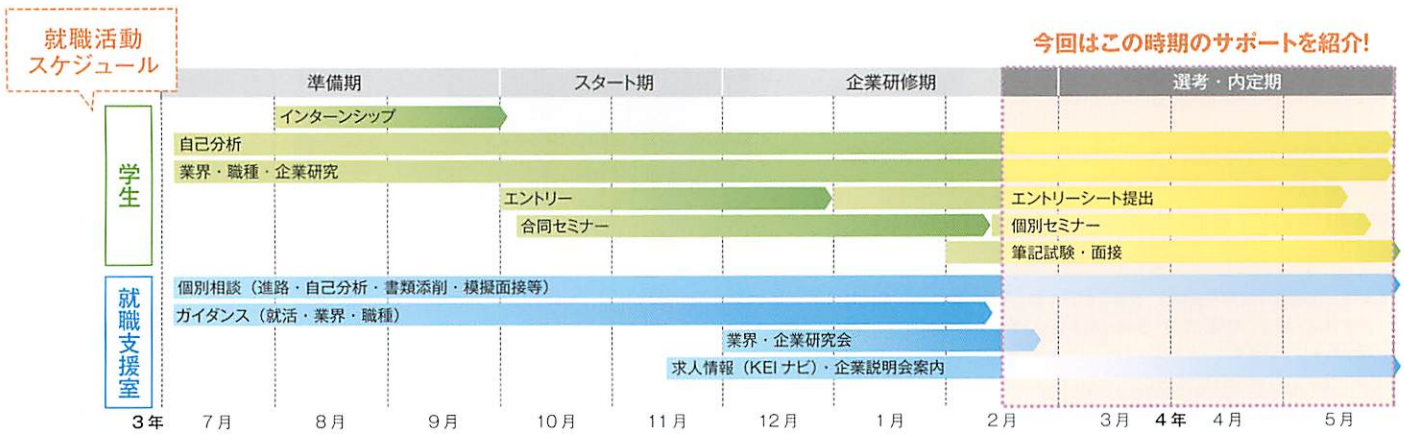
選考試験では、ほとんどの企業が面接を重視しています。しかしながら、面接の応対に正解はなく、面接官に「活躍してくれそうな人材だ」と印象付けられるかどうかで合否が決まるとも言えます。

この面接対策として、大きく分けて二つの支援を実施しています。

一つはさまざまな面接練習会の実施です。学生に面接官を経験してもらい、採用側が、何を求めているかを気付かせる場を提供するなどの工夫をしています。面接に慣れ、実際にどのように行われるのかを体験し、理解する中で、対応能力を高めることを狙っています。

面接練習会では面接官も経験

もう一つは個別対応での面接指導です。志望する企業ごとに求めている人材像を探ったり、選考ステップの進捗状況や全体の応募倍率などを確認しながら、きめ細かい指導を行います。これにより、面接の位置付けや何が重視されるかを推測し、どのような点に留意して面接に望めばよいか



をアドバイスします。

民間企業の人事採用責任者を経験している就職支援室長をはじめ、キャリアカウンセラーらスタッフのノウハウをフルに活かした支援を行っています。

企業の採用トレンドに素早く、柔軟に対応

2009年あたりから、大手企業はインターネットからの自由応募者よりも学内説明会や学校推薦者を優先して採用しようとする傾向が強まっています。本学ではこのような動きに素早く対応し、業界・企業研究会への参加企業枠を増やすなど、採用機会の拡大に努めています。

また、今後ますます大学の就職支援体制が重視されることを見据えて、全学的な就職支援プログラムを構築。2010年には、「社会的・職業的自立力を培う『金沢就業塾』」が文部科学省大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）に採択されました。

加えて、就職支援室ではキャリアカウンセラーを増員し、よりきめの細かい就職支援体制を築いていきます。

キャリアカウンセラーが一人ひとりに合わせて的確にアドバイス

就職支援室のサポート

- 就職ガイダンス開催（「業種別の業界研究」「エントリーシートの書き方」「面接対策」など）
- 業界・企業研究会開催
- エントリーシート添削・模擬面接
- キャリアカウンセラーによるカウンセリング
  毎週火・水・木 13:00～17:00 ※要予約
- インターンシップ先紹介
- キャリアラーニングバスツアー実施
- 求人情報・就職関連資料閲覧

就職支援室
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL（076）264-5265
E-mail　在学生 syukatsu@adm.kanazawa-u.ac.jp
　　その他 syusidou@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/work/
利用時間:平日9:00～17:00（資料室は21:00まで）

学生インタビュー

あなたの体験教えてください

教育学部4年
栗山 憲人さん
建設業に就職内定

教育学部4年
水野 陽介さん
製造業に就職内定

特に力を入れていたことは？

栗山／面接対策ですね。3年生のころ、プレゼンの上手な学生に出会って衝撃を受けました。それからは、間の取り方や話し方に気を付けて練習するようになり、本番に活かせたと感じています。

水野／私も、面接の対策には力を入れました。自問自答して自己分析を深めることで、自分を素直にPRできるようになりました。また、話す内容だけでなく、いい印象を与えるしぐさや雰囲気についても意識的に練習しました。多少言葉に詰まっても情熱や印象で補えたこともあります。

就活のポイントは？

栗山／合同面接会などで話すときは、常に選考されているつもりで「見られている」ことを意識しました。単に「話を聞く」だけとは緊張感が違い、受け答えの技術を磨く良い機会になります。

水野／私は、視野をできるだけ広く持つため、就職活動に直接関係のない人たちと話したり、友達とバーベキューをしたりしてリフレッシュすることも心掛けました。就活は緊張の連続ですから、しっかり息抜きをすることも大切ですよ。

就職支援室前にてガッツポーズ

学生インタビュー

Student Interview

幼少時から続けている狂言と
大学で始めた地域活性化チーム「ちいきハントん」。
積極的に地域につながろうと努力する
炭さんに話を伺った。

金沢大学人間社会学域地域創造学類2年

炭 光太郎 *SUMI Kotaro*

狂言一家に生まれて

幼少時、父と姉に影響を受けて狂言を始めた。それから狂言師・野村祐丞さんの下で週2、3回の稽古を続けている。狂言は日常の出来事を題材にした喜劇である。能だけでは舞台に緊迫感が続くため、場を和ませるために狂言を挟んだ。能と狂言をあわせて「能楽」という。

炭さんが所属する和泉流野村万蔵家は、加賀藩前田家お抱えの狂言の名家だ。炭さんも毎年、県立能楽堂で金沢能楽会の舞台に立ち、2010年の夏は東京の宝生能楽堂で宝生流の定例能にも出演した。

舞台に立つ中学時代の炭さん

伝統の奥深さを伝えたい

「実は、高校時代までは狂言が好きではなかった」と打ち明ける炭さん。しかし大学1年の夏、東京の本職狂言師の稽古に参加したことがきっかけで、狂言とのかかわりを見つめ直してみたという。例えば「昆布売」一曲をとっても流派によって違いがあり、それぞれが昔から変わることなく連綿と受け継がれている。師匠の言い回しや振りなどをまねて覚えるのだが、それを自分のものにするのは、一朝一夕にできるほどたやすくはない。だが、そこに奥深さと魅力を感じる。

「大勢の人に舞台を見てもらい、狂言を作り伝えてきた人たちのすごさ、現代にも通ずる滑稽さや風刺を感じてほしい。そして狂言を通して地域とつながっていきたい」。

「ちいきハントん」が契機に

「もっと地域とかかわりたい」、そんな思いから地域プランニングコースを専攻したが、はじめは思うように活動できなかった。すると、コース担当の神谷浩夫教授がいろいろな地域交流の機会を作ってくれた。

2010年、金沢市が主催する「金沢学生まちづくりコンペティション」に、コースの仲間と「ちいきハントん」を結成して応募した。金沢のB級グルメ・ハントンライスをもじり、おもしろく〝ちいき(地域)〟を〝ハント(探す)〟するという思いを重ねた。採択された「加賀夜祭～加賀野菜と光のアート～」を企画・運営し、加賀野菜を使ったキャンドルを作って商店街に飾り付け、金沢のまちを元気づけた。

「みんなで力を合わせるべき場面も多かったのに、各自で動いてしまった。それでも子どもたちが喜んでくれたことがうれしい」と話す。狂言以外で地域とのつながりを体験できたことで、炭さんは少しずつ変わってきたと感じている。

見聞を広めてから狂言師に

卒業後は就職して働きながら狂言を続けたいと話す炭さん。「どんな職業も地域とかかわりがあるので、まず社会がどのようなものかを知りたい。見聞を広めた後、本職に弟子入りするつもりだ」と教えてくれた。狂言を地域に広めるためには、就職は必要なステップだと感じているようだ。炭さんのさらなる活躍に期待したい。

加賀野菜を使ったキャンドル

炭 光太郎 さん
プロフィール

金沢市出身。
3歳から狂言を始める。
もともとは外に出たがらない性格だったが，今では海外に行くことも含め，視野を広げたいと思っている。

コートから広がる地域貢献
バスケットボール部

バスケットボール部の活躍はここで！
●男子 http://ameblo.jp/kanazawa-turtles/
●女子 http://www.geocities.jp/k_u_sunflowers2010/

上級生が引退したばかりの新チームが目指すのは、5月の北信越大会春季学生リーグで勝ち、1部昇格を果たすことだ。

「勝つのは簡単ではないが精いっぱい努力する」と意気込むのは、男子キャプテンの小原（こはら）一輝さん（学校教育学類3年）。足腰を鍛えるために海岸で走り込む合宿を行うなど、強くなるためにはつらい練習もいとわない。学生主体のチームでは、「団結力が最も重要だ」と話す。

また、女子副キャプテンの町野綾香さん（地域創造学類2年）は「頑張ったらいける」と自信をのぞかせる。「練習は厳しいですが、チーム一丸となれる」と話す彼女は、チームワークをさらに強めるためにも、男子にならって合宿を考えている。

試合感覚を養うためには練習試合が欠かせない。主に市内の高校生チームを相手に行っており、また「金沢大学をもっと知ってもらえる契機になれば」と二人は口をそろえる。

さらに、小中学生との交流試合の運営も見逃せない。小学校は16年間、中学校は7年間続いている。「金大だから頼める」という依頼者からの信頼は厚い。審判や試合運営を経験することで、コートの外で支えてくれる人々の大切さを改めて知り、バスケができる喜びを噛みしめている。人とのかかわりを大切にする彼らは将来、コートを飛び出し、社会でも活躍してくれるに違いない。

地域の小学生たちとの交流

Circle introduction サークル紹介

現在,金沢大学には文化系サークルが43,
体育系サークルが41あり
2,500人以上の学生が所属しています。

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/

心に温かい光をともす
能登見守り・寄り添い隊「灯（あかり）」

「灯」の活躍はここで！
●http://d.hatena.ne.jp/kanazawa-noto-akari/

2007年3月の能登半島地震をきっかけに結成されたボランティアサークル「灯（あかり）」。はじめは被災者の心のケアを目的としていたが、今では高齢者の見守りや防災をかねて日常的に地域とかかわるようになった。

直接のきっかけは「中越・KOBE足湯隊」※の能登での活動に参加したこと。人の温かさに感動し、自分たちにもできることがあるはずと考えた学生たちが自主的に集まった。足湯や手のマッサージを学び、能登の被災地を中心に実践している。

あるとき、足湯をしていた女性が急に泣き出した。一人暮らしを寂しく感じていた彼女は、メンバーの顔を見て感極まったのか、「会えてよかった」と安堵（あんど）し、そして笑顔を見せてくれた。またあるときは、お年寄りの自宅まで伺って、ミカンを食べながらおしゃべりもした。どちらも初対面だったが、足湯がコミュニケーションのきっかけになった。

男女12人のメンバーに共通するのは「能登が好き」という強い想い。地域の人に足湯を「してあげる」のではなく、「させていただく」心構えで活動する彼らの合い言葉は「いつも笑顔で！」だ。

最近では、能登の高校生や金沢の住民に足湯の良さを伝えている。「中越・KOBE足湯隊」から「灯」へ、そして地域へ、ノウハウとともに地域への熱い想いが受け継がれていく。サークル名の由来は「燃え盛る炎ではなく、ぽっと灯るあかり」。これからもたくさんの温かい「灯」が地域に広がっていくことだろう。

※神戸や新潟の学生らを中心とした足湯ボランティアグループ

福祉施設での足湯の様子

能登の高校生たちと一緒に

卒業学部を超え，日本各地で交流が進む

金沢大学同窓会情報

協議会から緩やかな連合体へ「金沢大学学友会」設立に向けて

1862年設立の加賀藩彦三種痘所を源流とする金沢大学は、学域の学類生が初めて卒業する2012年に「創基150年」を迎えます。創基150年記念事業として、記念碑の設置、創基150年史の編さん、各種シンポジウムの開催のほか、全学同窓会「金沢大学学友会」（学友会）の設立をめざして準備を進めています。

より密接な情報交換と、金沢大学を強力に支援する環境の醸成をめざして、全学同窓会「金沢大学学友会」を設立します。

学友会は、「設立構想概念図」に示すように、2006年8月に設立した「金沢大学同窓会連絡協議会」を構成する学部・学科や前身校の同窓会（基幹同窓会）に、本学の卒業生で組織するさまざまな同窓会※のうち、学友会に加盟した同窓会（登録同窓会等）が加わったより広い組織です。

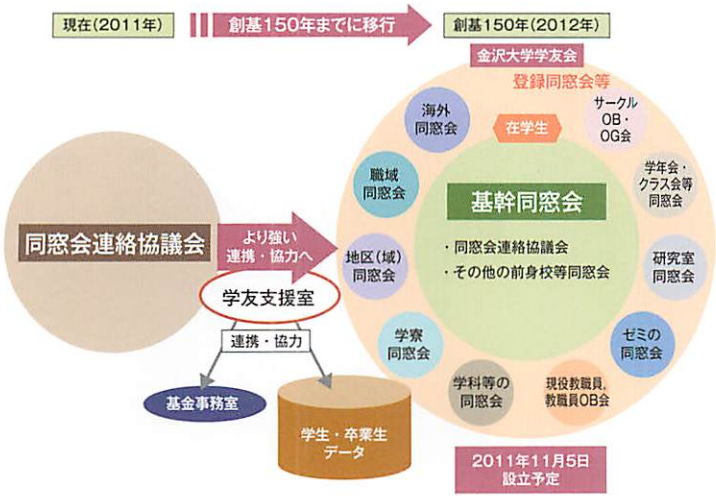
学友会は、①大学と密接な情報交換を行い、同窓会・OB会等が団結し、大学をより強力に支援する環境を醸成する組織とすること、②同窓会は緩やかな連合体であり、各同窓会は独自の活動を継続すること、③基幹同窓会と登録同窓会等で構成すること、④各々の権利と義務を区別した制度設計とすること、を骨格としています。

設立総会は2011年11月5日

この骨格に基づき、役員構成・事務局・財政等の在り方、事業計画、会則等について大学と検討を進め、関係同窓会の加盟登録を経て、第5回ホームカミングデイ開催日の11月5日に設立する予定です。

※サークル・同好会、学年会・クラス会・学科・ゼミ、学寮、地域・職域・海外等の同窓会やネットワーク等

「金沢大学学友会」設立構想概念図



活動報告 2010.10～12

- 10/8 同窓会連絡協議会第10回幹事会
- 10/17 新聞会OB会「白門会」総会
- 10/17・18 法文学部昭和35年卒・卒後50年記念同窓会・記念植樹
- 11/6 金沢城公園石川門口に「金沢大学誕生の地」石碑設置

- 11/6 第4回ホームカミングデイ・金沢城内大懇親交流会
- 11/6 教育同窓会第2回総会
- 11/6 法律相談所OB会
- 11/12 附属高校中央官庁職域同窓会「のがすみ会」総会

単位同窓会支部等総会

- 【法経文学部同窓会】11/27 関西
- 【教育同窓会】11/6 地理学教室同窓会
- 【理学部同窓会連絡会】11/6 物理学科同窓会
- 11/6 生物学科同窓会
- 【医学部十全同窓会】10/3 能登 10/30 長野
- 【薬学同窓会】10/17 石川
- 【金沢工業会】11/6 石川 11/13 茨城 11/28 福島

同窓会の人的ネットワークを活用し，有意義な人生を

金沢大学同窓会連絡協議会参加の同窓会

法経文学部同窓会	TEL(076)264-1667
教育同窓会	TEL(076)264-5081(学友支援室気付)
理学部同窓会連絡会	TEL(076)264-5081(学友支援室気付)
医学部十全同窓会	TEL(076)265-2132
医学部保健学科つるま同窓会	TEL(076)265-2504
薬学同窓会	TEL(076)260-6366
金沢工業会	TEL(076)264-0482
四高同窓会	TEL(076)262-5464(石川四高記念文化交流館内)

金沢大学は，卒業生を大学の重要な構成員と位置付け，連絡協議会に未参加の前身校同窓会，入学・卒業同期会，学科・研究室同窓会，学寮やサークルOB・OG会等の参加を得て，より強固な全学同窓会組織（学友会）の確立をめざしています。

新たな同窓会結成などの情報がありましたら，学友支援室へご一報願います。

[事務局]金沢大学学友支援室
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL(076)264-5081 FAX(076)234-4015
E-mail:gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/

金沢大学基金

学生を応援し、研究活動を支え、地域社会を育てる基金です。

基金の運用収益により、2010年度は、金沢大学学生特別支援制度「外国人留学生修学支援奨学金」の一部をサポートしています。この奨学金の受給者から、感謝の言葉が寄せられました。

何琳(He Lin)さん

人間社会環境研究科博士前期課程2年(中国出身)

私は日本の刑事訴訟法を研究しています。中国ではこの分野の研究者が少ないため、将来は両国の法律に関する議論や法曹関係者間の交流が一層深められる仕事に就きたいと考えています。奨学金をいただき感謝すると同時に、一生懸命研究に取り組もうと決意を新たにしました。

梁銘(Liang Ming)さん

自然科学研究科博士前期課程2年(中国出身)

中国の大学で通信関係を学び、企業に2年間勤務しました。金沢大学では場所ごとに電波を特定する研究に取り組み、3月に修了いたします。不況にもかかわらず、支援のおかげで学業を修めることができ、再び社会人としての一歩を踏み出します。支えてくださった皆さまへの感謝を忘れず、より一層精進していきたいと思います。

ハリアント(Haryanto)さん

医学系研究科博士前期課程2年(インドネシア出身)

看護師の私は、糖尿病による下腿潰瘍の看護ケアを主に行っており、創傷治癒に対するインドネシア蜂蜜の有効性を研究しています。今回の奨学金で、褥瘡の国際学会(EPUAP)に研究成果を発表できました。今後も、大学・地域で開催される国際的な催しに参加し、より交流を深めていきたいと思います。

寄附者別一覧(2011年1月末現在)

寄附者区分	延べ件数	金額(千円)
役員	30	3,540
教職員	194	17,904
名誉教授	27	2,263
健寿会※	63	2,111
卒業生	1,360	20,396
学生の保護者	8	55
一般	16	190
法人等	147	35,819
合計	1,845	82,279

※教員を除く退職者の会

金沢大学基金や金沢大学の近況についてお知らせする基金ニュースを，毎月発行しています。電子メールでの送付も可能です。配信をご希望の方は，金沢大学基金事務室までご連絡ください。

金沢大学基金事務室
〒920-1192　石川県金沢市角間町
TEL(076)264-5075　FAX(076)234-4015
E-mail:kikin@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://www.kikin.kanazawa-u.ac.jp/kikin/

〈先魁・共存・創造〉創基150年記念事業

金沢大学は2012年に、その源流となる加賀藩彦三種痘所の設立(1862年)から数えて150年目の節目を迎えます。

「アジア5大学学長フォーラム in 金沢」開催に向けて

金沢大学は「大学憲章」において「地域における学術文化の発展に貢献し、北陸さらには東アジアにおける知の拠点として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信する」と自らの決意を宣言しています。

これを受けて記念事業の一環として、2011年秋にアジア5大学の学長による学長フォーラムを開催します。金沢大学の重要なパートナーであるアジアの大学の「生の声」を聞き、アジア文化圏の現在と未来における大学の役割をともに考えるのは極めて意義深いことです。同時に、本学留学生の協力のもと、「アジア学生フォーラム in 金沢」も開催します。

記念ワインづくりに参加！

2010年10月、学生ボランティア〈グループ150〉が企画した「創基150年記念ワインづくりに参加しよう」に応募した19人の参加者が、穴水町の畑でブドウを収穫しました。一房一房、丁寧に摘み取られたブドウは、12年に発売される記念ワインの原料の一部となります。

収穫したブドウを前に

〈グループ150〉ではメンバーを随時募集しています。
「学長フォーラム」,「学生フォーラム」の開催に向け，留学生の皆さんの参加も大歓迎です。
興味のある方はご連絡ください。

創基150年記念事業準備委員会
〒920-1192　石川県金沢市角間町
TEL(076)264-5111　FAX(076)234-4010
E-mail:soki150@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://www.kanazawa-u.ac.jp/kanazawa150/

NEWS & TOPICS

金大のいまが分かる｜ニュース&トピックス

2010 October 10月

10/14 角間キャンパス屋外緑化2010(第1回植樹)を実施

11月12日には、第2回植樹を実施しました。

10/16・17 地域と大学の共創まちづくり「金澤ひがし竹あかり」を実施

10/19 附属特別支援学校高等部で創基150年記念缶入りクッキーを製作

P19に関連記事

10/23 吹奏楽団が全日本吹奏楽コンクール大学の部で銅賞を受賞

10/31 アメリカンフットボール部が北陸リーグ全勝で17連覇

November 11月

11/4 国大協大学改革シンポジウムを開催

能登オペレーティング・ユニット開設を記念し、「地域連携で加速するフィールド研究」をテーマに講演と報告を行いました。

11/19-25 イタリアから壁画修復士を招き、学生へ講義・実習指導

11/20 合唱団が全日本合唱コンクール全国大会で銀賞を受賞

11/20 キャリアラーニングバスツアー(大阪)を開催

P14・15に関連記事

国立大学フェスタ2010

10/29 金沢大学と報道機関との懇談会

11/5-7 第47回金大祭

11/6 ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー

子どもから大人まで楽しめる企画がたくさん催され、多くの方が訪れました。

11/6 石碑「金沢大学誕生の地」除幕式

P18に関連記事

11/6 第4回金沢大学ホームカミングデイ

卒業生の桂まん我さんによる落語会や抽選会など、出席者参加型の企画が数多く行われ、大いに盛り上がりました。歓迎式典の後には、金沢城五十間長屋で「金沢城内大懇親交流会」が開催され、卒業生たちが旧交を温めるよい機会となりました。

P18に関連記事

11/6・7 医学展2010

「OPEN」をテーマに、2日間で約3000人が参加しました。

11/7 金沢大学散策ツアー

11/27 第3回金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム

「国際連携・東アジア」をテーマに東京都内で開催し、約220名が参加しました。

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は金沢大学ホームページでご覧いただけます。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/

COP10

10/19-24 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）関連イベントに参加

国連や自治体の開催するイベントに参加しました。

「金沢大学の日」
21, 22日, COP10会場に「里山里海プロジェクト」のパネルを設置し, 大学の取り組みを紹介

19日, IPSI（SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ）発足式典

23, 24日 石川県企画の能登エクスカーション

December 12月

12/7 第3回金沢大学女性研究者支援シンポジウムを開催

P13に関連記事

12/9 留学生懇談会を開催

12/10 北陸先端科学技術大学院大学との研究交流会を開催

12/18・19 いしかわ金沢学冬コースを開催

水引細工や餅つきを体験しました。

2011 January 1月

1/5 『金大人間社会研究叢書』第1巻を刊行

1/10 金沢大学放送局「web-KURS」がNHKラジオのコンテストで最優秀作品賞を受賞

1/12 金沢大学フォーラムを開催

文化人類学者の青木保青山学院大学大学院特任教授が「21世紀文明と大学」と題して講演しました。

1/21・22 能登総合シンポジウムを開催

能登半島で展開する研究プログラムについて、27の発表がありました。

1/27 医学類公認サークル「Live Aid Kanazawa」が平成22年度「学生ボランティア団体助成」事業に採択

DATA NOTE

交流協定

2010年
9月
人間社会環境研究科が韓国・仁荷大学校文科大学と部局間交流協定を締結

10月
人間社会環境研究科が中国・浙江大学人文学院と部局間交流協定を締結

11月
中国・東華大学と大学間交流協定を締結
ポーランド・ワルシャワ大学と大学間交流協定を締結
ベトナム・ベトナム国家大学ホーチミンシティ工科大学と大学間交流協定を締結

2011年
1月
金沢美術工芸大学と大学間交流に関する包括協定を締結
連携・協力を強化し、地域社会のさらなる発展に貢献します。

協定書をとり交わす金沢美大久世学長（左）と中村学長（右）

がん研究所が中国・復旦大学上海がん病院と部局間交流協定を締結

受賞

2010年
11月
平成22年秋の叙勲
瑞宝中綬章（教育研究功労）
・久田欣一　名誉教授
・古田孝臣　名誉教授
瑞宝単光章（学校業務功労）
・島　健一　元自動車運転手車庫長

医薬保健研究域の東田陽博教授が2010年度金沢市文化賞を受賞

人間社会研究域の倉田徹准教授が香港の「一国二制度」の研究で第32回サントリー学芸賞を受賞

医薬保健研究域の榊原千秋助教が平成22年度社会貢献者表彰を受賞

平成22年度医学教育等関係業務功労者表彰
・作間祥一　附属病院歯科技工士
・今村明子　附属病院実験助手

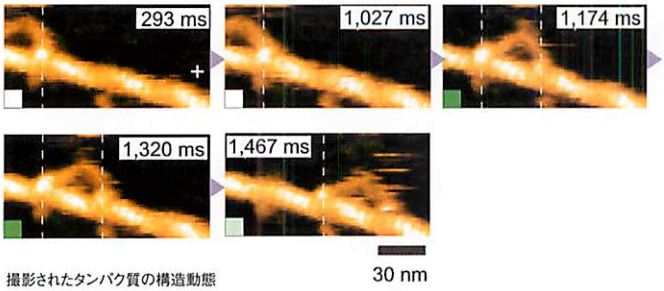
12月
附属中学校の坂口匠教頭が平成22年度文部科学大臣教育者表彰を受賞

2011年
1月
附属小学校の乗富章子教諭が平成22年度文部科学大臣優秀教員表彰を受賞

研究・教育実績

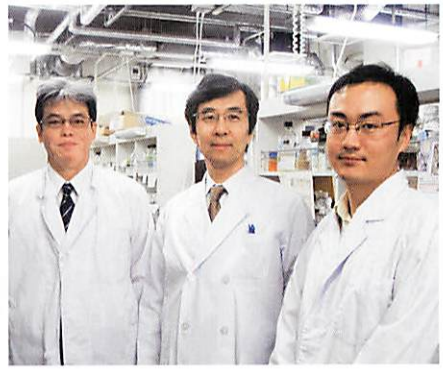
2010年
10月
フロンティアサイエンス機構の岩坂泰信特任教授らの研究グループが日本海上空で起きる黄砂粒子の液滴化現象を発見

理工研究域の安藤敏夫教授らの研究グループが科学誌『Nature』に論文掲載
世界最高性能の高速原子間力顕微鏡（AFM）で、タンパク質の構造動態を直接、高解像撮影することに成功しました。



撮影されたタンパク質の構造動態

医薬保健研究域の多久和陽教授らの研究グループが動脈硬化の画期的治療薬を開発


多久和陽教授（中央）を中心とする研究グループ

11月
医薬保健研究域の金子周一教授らの研究グループは肝臓が血糖を上げるホルモンをつくることを発見し「ヘパトカイン」と命名

医薬保健研究域の中沼安二教授らが提唱する病理分類等が世界保健機関（WHO）『消化器腫瘍分類』に採用

理化学研究所、京都大学、理工研究域の福森義宏教授の研究グループが『Science』に論文掲載
温室効果ガスを発生させる一酸化窒素還元酵素の立体構造を世界で初めて解明しました。

EVENT CALENDAR イベントカレンダー

お気軽にご参加ください

★マークはサークルのイベント。（　）は開催場所です。
＊マークは金沢大学サテライト・プラザで開催します。
特に明記がないものは金沢大学角間キャンパスで開催します。

3月

4 附属高等学校卒業式
5 タウンミーティングin七尾（サンビーム日和ヶ丘）
5 ミニ講演「返還後の香港に見る中国との付き合い方」＊
8 附属特別支援学校卒業式
8 前期日程 合格発表
9 附属幼稚園修了式
10 附属小学校卒業式
11 附属中学校卒業式
12 一般入試 後期日程
12 能登半島地震4周年メモリアル・フォーラム（輪島市・禅の里交流館）
13 学生リユース市
19 能登里山マイスター修了式（能登学舎）
22 後期日程 合格発表
22 学位記・修了証書授与式（いしかわ総合スポーツセンター）

学位記・修了証書授与式

日時／3月22日（火）開式10:00
場所／いしかわ総合スポーツセンター
（金沢市稚日野町北222番地）

・開式の辞
・学位記授与
・学長告辞
・在学生代表送辞
・卒業生代表答辞
・修了生代表答辞
・同窓会連絡協議会会長祝辞
・学長表彰
・校歌斉唱
・祝典演奏
・閉式の辞

24 オープン・スクール「生活者発想塾」

4月

7 入学宣誓式（いしかわ総合スポーツセンター）
8 履修ガイダンス
8 附属小学校・中学校・高等学校・特別支援学校入学式
11 オリエンテーション
12 前期授業開始
12 附属幼稚園入園式
24 ミニ講演「北陸新幹線金沢開業と北陸の観光交通」＊

5月

27 附属中学校研究発表会
28 ミニ講演「英国発グラウンドワーク（仮）」＊
28 マンドリンクラブ富山大・金沢大合同演奏会（金沢市文化ホール）★
29 開学記念無料法律相談（四高記念館）

6月

18 吹奏楽団サマーコンサート（金沢市文化ホール）★

7月

2 フィルハーモニー管弦楽団サマーコンサート（金沢歌劇座）★

8月

4,5 オープンキャンパス

オープンキャンパス2011

日時／8月4日（木），5日（金）
午前の部 / 受付 9:30
/ 開始 10:00
午後の部 / 受付 13:00
/ 開始 13:30

金沢大学は魅力が詰まった箱。
ふたを開けて自ら体験してみよう!

12-16 夏季一斉休業

公開講座

4/9-30 塑造による頭像の制作
4/29 漢方の不思議を解く! Part4：薬酒ー薬草園学入門講座ー
5/14-21 コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座 初級コース
5/14-6/18 がん研究の最前線 ＊
5/21 城と歴史を活かしたまちづくり ＊
6/1-29 世界の川の文化論 ＊
6/19-7/17 日中関係を考える糸口ー多角的に中国を見るー
6/25-7/9 科学・技術・社会ー西と東ー ＊
6/25-8/20 子どもにとっての親の役割を考える
7/2-9 コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座 中級コース
7/2-9 高校生から分かる法学・政治学の諸問題（第二弾）＊
7/16-18 14世紀の絵画技法・フレスコ画制作
8/3-4 高校生のための医学・発生生物学への招待
8/24-25 聴覚障害児を指導する教員のための手話講座
9/3 健康寿命をのばそう（Part3）＊
9/3-10 生活の中の化学について学ぶ
9/10-10/1 健康を創ろう
10/15 海の考古学 ＊
11/10-24 大学の地域連携がうみだすもの ＊
1/21-28 戦後教育の60年を振り返る ＊
1/28-3/24 細胞診断学演習
2/14-16 薬局見学・体験ツアー

地域の皆さまの生涯学習をお手伝いいたします。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho_c/kouza.htm

インフォスクエア（中央図書館2階）
本を含めさまざまな情報とふれあうスペース

グループスタジオ（中央図書館3階）
多様な学習を支援する「オープン」「フリー」「見える」スタジオ

ぶらりキャンパスめぐり

金大生がお気に入りの場所を紹介します！

Acanthusとは

古代ギリシャ・ローマに由来する植物で，和名を葉薊（ハアザミ）という。金沢大学校章のモチーフとなっていることから，キャンパス内施設に名称が使われるなど，長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

［表紙写真］自然科学系図書館（角間キャンパス）

全面ガラス張りの壁面と開放的な円形の吹き抜けが特徴です。主に理・工・薬学分野の図書等約34万冊を収蔵。大規模な自動化書庫が完備され，古い図書もスムーズに取り出せます。モデルは，サークル紹介に登場したバスケットボール部の皆さん。

2012年，
金沢大学は
創基150年。
先魁 共存 創造

金沢大学 創基150年

KANAZAWA UNIVERSITY 1949 — 1862 金沢大学

金沢大学の最新情報は
金沢大学ホームページからご覧いただけます。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/

K-Dictionary
金沢大学の魅力を230のキーワードから紹介します。
http://www.kanazawa-u.ac.jp/K-dictionary/mobile/

Mobile Site
携帯サイトはこちら！
http://daigakujc.jp/kanazawa-u/

発行日 2011年3月1日
発 行 金沢大学広報戦略室 〒920-1192 金沢市角間町 TEL(076)264-5024 koho@adm.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配布を希望される同窓会には有償で増刷いたしますので，所要数をご連絡ください。